



大和通記

第十六
高市郡

特別
凡4
3979
12



門 4
3979
元 12



和州舊跡幽考目錄

第十六卷高市郡

向原寺 付 金銅釈迦事

石川精舍 付 跡勒石佛 ○ 惠便法師 ○ 三

屋事

大野岳塔

元真寺 付 樹葉家 ○ 真神原 ○ 菅田 ○

釈迦銅像 ○ 縫佛 ○ 孟蘭盆會 ○

禿上 ○ 道場法師の事

真神原

豊浦宮



昭和二十七年
三月十八日
購求

飛鳥寺

伴村 ○阿田村事

城上宮

飛鳥井

七瀬淀

飛鳥川邊行宮

賴我馬子家地付

事

難波堀江

清隅池

石川百濟村付 大

百濟大井宮

飛鳥川

神名火剛

飛鳥板蓋新宮

飛鳥都

排原墓 ○東条龍山寺

遠明日香宮

劍池

孝元天皇陵

榎葉井

豐浦村社

八鈎宮

獲我稻目家地

八木村付 曾良橋事

畝傍池

神本天皇陵

安寧天皇陵

擅原宮

懿德天皇陵

櫻井

雷也

夫鈎山

大官大寺

畝火山付 神社事

斤監深孔宮

神八井耳余陵

三山

圓源寺

久示

久米川

人〇寶塔事

益田池碑銘

内宿祢墓

輕

輕曲峽宮

輕池

陵

依味隈

欽明天皇陵

久米寺 付久米仙

益田池

毛倉

鳥屋村

輕境原宮

輕嶋明宮

法輪寺 付藥師事

檜隈川

檜隈廬入野宮

檜隈陵上大柱

天武天皇陵

文武天皇陵

堅鹽媛陵

子寫寺 付報恩沙弥〇

檜隈寺

壺坂寺 付龍藏權現事

蘓我川原

太玉神社

高市宮

延喜式神名帳

持統天皇陵

香備姬王陵

檜隈野吳原

真真法師事

鷹取

勾金橋宮

岡本天皇陵

高市社 付神階事

和州舊跡函考第十六卷

高市郡

向原寺

或和尚元和之中乃速作の書に向原
 寺の傍に曲川乃造はわりと云くは義
 よきくく之はむむむ向原寺と曲川乃
 造よわりて後石川より流れて石川乃
 指舎といひけるもや又日本紀に守屋の
 大連焼拂の狩はありけり向原寺石川
 指舎大野並乃塔岡所乃やむきん
 御り後乃人ゆきくくく

人皇世代欽明天皇十三乙未十月百餘國乃
 聖明王之河内くひとて西部姫氏速率

奴喇斯致契等款述乃金銅乃像一軀
蓋徑傳佛乃卷七欽明天皇よそ送り
乃表頌詞
流通禮拜功德云是法於諸法中最為殊
勝難解難入周公孔子尚不能知此法能
生無量無邊福德果報乃至成辨無上菩
提譬如人懷隨意實逐所須用盡依情此
妙法寶亦復然祈願依情無所定且史遠
自天生爰泊三韓依教奉持無不尊敬由
是百濟王臣明謹遣陪臣奴喇斯致契奉
傳帝國流通幾内果佛所記我法東流云
天皇歡感る乃めさるる由りくあが
長小初して西蕃より得る佛の由り

乃の端嚴一拜礼なる由りや
又我國之天地社稷乃百八十神と
はるはる他國乃神代わがれ
報奉しきりきり我稻目宿禰ひり
諸國よりきりきり敬拜礼と
後ひるんよる水のゆりあり
きりありのあまは稲目宿禰よ佛代
ぬ汝供養代をよ稲目宿禰よこび
回乃家よ安置し向原寺と
終よ守屋大連寺代焼
の場はよまのりよる日本此向原寺
本朝寺院乃ちあめり書
向原寺ハ我稻目宿禰よる由り

我馬子^{いばこ}此^こよりくく石川^{いしかわ}乃^{すなは}精舎^{しやうが}とあり
守屋^{もりや}大連^{だいにん}焼^やくくひくの後^{のち}元興寺^{げんこうじ}とあり
きりや三代^{さんだい}実録^{じつろく}曰^い建興寺^{けんこうじ}は舊^{ふる}我^{われ}
稻月^{いなづま}可^か建^{けん}く建興寺^{けんこうじ}ハ元興寺^{げんこうじ}乃^{すなは}豊后^{ぶんご}
也^{なり}又^{また}三代^{さんだい}格^{かく}曰^い元興寺^{げんこうじ}と傳^{つた}法^ほ元興^{げんこう}之^の場^ば
聖教^{せいぎょう}寂^{じやく}物^{ぶつ}之^の地^ち也^{なり}と云^いくお少^{すく}少^{すく}同^{どう}地^ち寺^じ号^{ごう}
異^い次^じ

石川精舎

玉林^{りんぎん}折^せ云^い豊浦^{ぶんぼ}より西^{にし}四十町^{しじゅうしちやう}なり
舊^{ふる}我^{われ}大臣^{だいじん}乃^{すなは}領^{りやう}知^ち乃^{すなは}内^{うち}外^がしてこの乃^{すなは}
家^{いえ}乃^{すなは}東^{あづま}なりと云^いく今^{いま}乃^{すなは}るよ石川^{いしかわ}
と西^{にし}よ豊浦^{ぶんぼ}を東^{あづま}よるなりびを東^{あづま}
よに^にび^びく元興寺^{げんこうじ}の跡^{あと}よ草堂^{そうどう}と

石川^{いしかわ}精舎^{しやうが}之人^{のひと}皇世^{こうせい}一代^{いちだい}敏達^{みんたつ}天皇^{てんかう}十三年^{じゅうさんねん}九
月^{がつ}百濟^{ひやくせい}國^{のくに}乃^{すなは}使^し鹿深^{しかふか}臣^{のちん}冰^{ひやう}勸^{くわん}乃^{すなは}石佛^{いしふつ}一^{いつ}軀^こ
又^{また}依^よ伯連^{はくれん}佛^{ぶつ}像^{ざう}一^{いつ}軀^こよりして來^き朝^{あす}より舊^{ふる}
我^{われ}馬子^{まご}宥^{ゆう}祢^ねは二^に軀^こ乃^{すなは}佛^{ぶつ}頭^{かう}出^でひりをもな
りて播磨^{はりま}國^{のくに}よ法師^{ほふし}乃^{すなは}信^{しん}り^りえり
人^{ひと}わりきり惠^ゑ便^{べん}とそひききる本^{ほん}よ高麗^{かうらい}
國^{のくに}乃^{すなは}人^{ひと}なり是^{こゝ}我^{われ}海^{うみ}ひたせしきく法^ほ乃^{すなは}師^しと
ゆ^いごめ司馬^{しまた}達^{たつ}等^ら乃^{すなは}むしよめ鴻^{こう}女^{にょ}とひいて
又^{また}十^{じゅう}一^{いつ}あると云^いく所^{ところ}おりて善^{ぜん}信^{しん}屋^やとそ
ひひききる又^{また}ち^ち子^こやして漢^{かん}人^{にん}夜^や喜^き乃^{すなは}
女^{にょ}豊^{ぶん}女^{にょ}よりりそりて禪^{ぜん}後^ご屋^やとひひ錦^{にしん}織^お
臺^{たい}のむしよめ石^{いし}女^{にょ}と屋^やよち^ち惠^ゑ禪^{ぜん}屋^やと
ひひく三人^{さんにん}乃^{すなは}屋^やよ傳^{つた}と云^いくやまひ^{まひ}流^{りゅう}

海にけりて佛殿と成乃ひびく乃方よぬ
 へり乃石佛と安置一三人乃屋成りけり
 あびて大舎と成りたあまひ一司馬達等
 乃飯のえん佛舍利現ト後ひ一
 う進賢馬子宿禰よ由ひせり馬子ゆ
 バ試むればわくくやく鐵錘とありてあ
 るがらよりりきり一が錘乃もくさけや
 て又よ舍利と成りて後りも又水よ入て
 見ぬまじけ舍利あまのまじくよう紀之月
 後ひりハ是りきり馬子宿禰池邊
 田司馬達等佛法とたりとみとこりな
 馬子宿禰又石川乃宅よ佛殿と成り
 此佛乃道是りりりありけりとぞとてし

日本

大野立塔

石川同西也石川精舎ありびよは塔と
 もふ守屋焼拂ぬとくくやると
 大野立乃塔と人皇世一代敏達天皇十四
 二月獲我大長馬子宿禰建立一司馬達
 等乃得りりきり佛舍利と塔乃柱頭よ納め
 身と名とありあり一馬子患疾一きり
 又國よ疫疾れありて死をり人お母りされ
 ハ物部弓削守屋大連と伴長勝海太史
 奏一きり先帝より階下よひりりり
 てこう乃やまひ國民よきりえ解らむとあ
 よそく獲我長乃佛法と行ぬうらよあ

死むや帝ありあれば佛九道既断けり
ゆし乃宣勅とうも守屋みけり寺はゆて
塔壊さるるふし大とけり佛像佛殿と焼
るるひるるるそ乃焼あまし佛像と飛
波乃かりはよ志のあまし一日一天よ雲
あくましく風吹雨志なりあり三人乃反
とらひびせし三衣法を死より海留石市れ
亭よあしあめりり根天皇と大連も瘡と
ゆふものやと結ひし一が橋豊目皇子よみと
のりあり瘡やみく死するも乃國よとて死
とあんその瘡乃らるる一死身と焼がし
海にうこれるる死しはく多しぬ老若
竊相うりて是是佛像と焼しもの飛

あらんしやあり六月馬子奏関法理る臣
やゆひせりくさあるははくともとてこれ
自みしすま三寶乃らるるあつとまひそり
たもりりあむ馬子み余し結ひしとまふ
より後汝ひりり佛法とたりとみゆらよ
余人とゆへに此事ありまをり三人乃
臣と馬子よあへしえはせ結ひしと馬子
ゆしゆあむひ精舎とすそく徳養しすり
死る年乃八月よ天皇病水なり結ひし
あり日本敏達天皇十四年より延寶七
年迄凡一千九十九年歟

元真寺 付樹葉家 真神原 菅田
元真寺流記曰大野山乃北と云く

元真寺流記曰大野山乃北と云く

絶入海して六月十八日萬紀會十月十八日
下燈台垣例として勅使と人た乃宣下と後
の真觀後日紀乃宣符乃宣符のせりし朝
此寺佛法元興之場聖教寂初之地也去和
銅三年帝都遷平城之日諸寺隨後件寺獨
留朝廷更造新寺備其不移間所謂本元興
寺是也三代
▲炎上と五十八代元孝天皇仁和三年十二
月晦日也其後再興ありしころの衰破して
名のこのころきりし川乃世の再興乃時あり
存元興寺
▲元興寺よ道場法師とよあわりきり尾張

國の人あり敏達天皇乃御時とらや法師の父
田子水鏡浦のせるとせりしに雨より神
鳴落りしを利其ころおさる記も乃のや
もそ傳り鋤めくうらんとせりしつづら
我とありし事ありしは出もとられたのこ
う由せるんく楠本乃舟よ水とをうへ竹の
葉とううへてわきよえさせよとよあはるハ
やしくゆ乃とく志くえさせねまは雲よ
のり天よそ乃のりけりし程もくおのあを
うめりしよそまがわうへよ蛇乃ゆとひく
尾鴨うらうあが乃とそめそありきるますあま
りめしてハ方八尺乃石とやまううよそるを
けりそ後元興寺よけりしわりのきりし

大日靈直神之原亦由る雪と云ふは其の事なり
登目新記
石川百濟村
豊浦宮

豊浦宮

人皇世四代推古天皇と欽明天皇乃皇女用
明天皇同母九洲妹也て敏達天皇乃后
也其の御由りて敏達用明崇後乃三帝
の後豊浦宮也て即位御しく原戸皇の
と皇太子よと人後ひちて極政よ深と
元神中十一年小懸田宮より居りて後
其後皇居御施一後ひちて寺とありて
後ひちて豊浦寺乃在り元身寺
ありて豊浦寺行の事なるは其の事なり
五二

豊浦寺後乃并よ石川百濟村
月記

飛鳥寺

拾芥抄云元興寺と推古天皇御て遠
後小飛鳥并寺又本法興寺と云々
石川百濟村
付大伴村阿田村

石川百濟村

石川乃百餘村と敏達天皇御時あり
の目羅と云ひ勇士来朝より日本紀平氏
傳るごよありあり日羅死乞して後其
類素子等と石川より居りてあり
ありて大伴乃掃子子連議して戸一處
ありてありてありてありてありてあり

村よ水手等と石川の太伴村よとあり徳
爾等とつめく百秋乃阿田村より死
けり日本
百濟大井宮

百濟大井宮

是と付取よ侍らんうめごとく如きは
人皇世一代敏達天皇元年四月百秋乃
大井よ宮河法より後小日本池田宮古事
と云り延寶七年迄九一千百八年歿

城上宮

類聚名寄大和國と云く

磯城乃日本國如何方御念食可清祀
毛無城上宮尔大政と云く人法
百秋原よと云ふと云あり

木乃上の宮法常宮取

飛鳥川

飛鳥川乃川の上瀬よ石橋わく一
瀬よりり橋わく一畧
神奈尖山乃帯よと云く自香川乃を也記

助方香川に繋がる其本尖山乃本系と云
仲くよ定あを記世と云く自香川に流り
久々わくつわをよ其乃務統お記も
飛鳥川剛流と云く都は元と云く
飛鳥川剛流と云く都は元と云く
わつをるをと云くものきり

南世飛鳥川とていひ流るる所を飛鳥
 寺のやうり難波乃城はよも色遊くし
 よせを記めし色あらしむとてまうあきし
 亦不審を記めし色あらしむとて神名山
 乃帯よまりの日香乃川のともありと
 智よ神名大山と三橋山をりべし
 程をりりよ水東よなごころとて三橋
 山と武上郡よあり又日香川を系
 なるがれ葛城乃山とてありとて智よ
 葛城山といひてあり西よありとて
 葛城乃郡也亦言岡山乃梯飛鳥
 川よありとて智よありとて飛鳥
 磯城乃高岡山乃をれ乃ありとて

来つれを多のりれ一但あり乃言山
 乃をれを良乃飛鳥川よありとて
 めるやとて智人ば正徹和尚の弄よ
 の飛鳥よ川ありとて飛鳥一
 里をりて管見よありとて飛鳥事ありと
 之後乃人ありとて飛鳥一

飛鳥井

催る系 註秘抄云大和國飛鳥川のありとて
 飛鳥井よありとて智よありとて飛鳥
 み雨くし色あり

神名火洲

山邊りやありとて智よありとて
 大綱言大津御在寧樂家思故神歌

天皇山内御ひおろしわさるる世後の御
祖母の御間人皇太子皇孫と交まひ
御等御後宮の御後ひく後天皇御
あり後ふ十二月大坂磯長陵よりく
行宮より遷幸あり後ふ紀
行宮より遷幸あり後ふ紀

飛鳥郡

玉の御子絶れ来りありけり色やまだ
心御自香乃りあり紀もよき
後我馬子乃家地西志乃り人あり
庭の中より池とあり守より池とあり
てありひとあり

推古天皇四年六月の年
郡系墓より葬りしをり
河内東条石川よりあり東条龍山寺ハ
我大長乃寺也

人皇女代允恭天皇遠明日香宮あり
後より後ひくは宮よりあり

玉林折曰豊浦寺乃東の傳門乃を
ひがしより飛鳥川乃西乃入江是あり

難波江と守屋大連寺塔と焼るが
像と志乃あり

く 庭の底に毛からありし海よも
浦よもとよきく或は豊浦也
江とよ色山にけりて入りて
於入江を横津園ありん又善光寺
橋津園北波浦ありて傳とあり
そく管然よゆぐめごとく後乃人
のゆとるおべー法隆寺の旧觀
波江交是よゆまびらぐひも
新んり

劔池

平氏傳曰高市郡北波劔池ま
とあり

應神天皇十七年十月み池とあり劔池

せり 日本 け時輕池とあり

舒明天皇七年七月は池よ一莖よ花二ふ

こ乃蓮花咲り 日本 亦皇極天皇三年六

月一莖よ二乃乃華乃蓮葉咲けり豊浦

の大臣が將來此瑞ありとて金曇より

て大法興寺の丈六乃佛よなり

津佩子劔乃池の蓮葉よ津水乃行場

の池乃底吾ハ志乃びどそり

の池乃底吾ハ志乃びどそり

清濁池

仙覺抄大和國とあり
我心清とあり池の池乃底

堀河

みだりにとまをりてれど山びつげたるに後隆顯仲の池

孝元天皇八陵大和國高市郡鈕池高上陵

也延喜式日本紀亦鈕池中園上陵古史新守立十

七年日本紀始出る中後小治年百十七用化天皇

立年二月よけ陵よりくーなる日本紀延喜七

五一千八百卅立年秋

豊浦村乃民屋の志り人よわりてひの

一乃井とよのぼりつうようはれ果そ

の若沙とてこのまの此後求むれそり

信乃進乃勝と笑

昔若抄云宮内卿有賢朝臣時乃殿上人七

八人わひやもをひく大和國うげり記乃そ

ありびよゆれたる事ありとそ時わねあ

まゝる堂乃若乃あやうく志記がんそ

ばあやしてそ若代あかんごめとひそれど

志きる人もありのまりのあつごよ事乃

りのよひげ若代あつ記あそふ記より由ん

かりこれづもやうあつあつそそ

まび是とばとらう乃寺とそとひふん

ひみ記事やとらんもく感とてあつあ

まそけ過よ名のえ井とひみ井やあ

そ所ひよみれあそく水色ゆらぬ

跡と今よゆりとして堂より西しく

ぬねひ記とて入られそん興あ

やうていふまゝむきかへりてはるたせのふ奇ね
十進うへてひくけおされよふねどもぬれく
うけをそりかれさおほえぬ事よあひく
よりあびりてありよまるとさ
のぼりた乃寺の前ありや豊浦寺乃西あり
やえのち井よ白玉ありやゆい庭玉まの
くもよとむいさうとんやまうていふま
がらうんやまの所うとせしやとん
どろとむいさうとんやまうとん
のぼりもや豊浦寺西よあれたるを井よと白玉
櫛井まき 櫛井まき 同井どう 異名い 欽後乃人さ
ごうよとさうおへし

催馬 樂呂

續日本紀乃欽よ

葛城寺乃前よあれたるや豊浦寺乃西よあるや
とんやまうとむいさうとんやまうとん
くもよ泥壁しげやとんやまうとん
ありまば園がゆへんはや其乃家路がゆへ
ゆりやとんやまうとんやまうとん

豊浦村社

推古天皇と祠をまつとありこ乃天皇豊
浦と皇后とせしを後ひくはゆもゆりをん

雷園

飛鳥川乃東のちくめわり候よ雷村
やゆい乃雷爰よありをれとん
雷園の雄畧天皇の御宇小ぶ子の

舊傳

五

栖軒せけんの 笑わらわりのきり帝みかどよりこのけり後のちつ
人ひとのまは大安殿だんよりゆり乃のかりゆり村むらの村むら帝みかど
也やの海うみとてまのゆりゆりこれハ栖軒せけんの
村むら西にしをせ後のちひるんをわねるゆりゆりあり
物もの雷かみなり天あまよのきり地ちよをびりていふゆり
雷かみなり神かみとせりやあきくこれゆりていふゆり
宣のたま勅しとせりて馬うまと馳はて所ところ部の山やま田たよ
豊とよ浦うら寺てらよをい行ゆ虚こ宣のたま河かゆりゆり
勅し命いのちをくくとよびゆりて馳はぬきども
破やぶててやむとまゝに代か馳は行ゆて朝あさ
乃の虚こ宣のたまちり勅し命いのちをくともやとらひけ
乃の行ゆゆり雷かみなり終つひよ豊とよ浦うら寺てらと飯いひ田た乃の間まよ
あきく後のちをりゆり栖軒せけん是こゝを将まさくゆり

のくやと奏そうしぬきは教しやく洗せんゆりまはる雷かみなり神かみ
目めとゆりゆり鱗うろことせりて異い光ひかり御ご殿でんと
のやゆりきり帝みかどとてまはるゆりゆり
幣ぬい帛ひたひ成なり依より送おくていふ世よ後のちより乃のお
りける西にし代か雷かみなり乃の田たとていひけり
同どう 万よろ葉は 土つち神かみのゆりて大おほ天あま雷かみなりのゆりて
土つち神かみのゆりて大おほ天あま雷かみなりのゆりて
八や釣つり宮みや

山やま田た寺てらと大おほ系けい乃の中ちゆう路ろ大おほ系けいより四よ
町まちのゆり水みづ依より村むらとていふ
人ひと皇みかど廿に四じゅう代だい顯けん宗そう天あま皇みかど迹あと飛と鳥とり八はち釣つり宮みやよりて所ところ
後のちゆりて目め本ほん 三月さんげつ上じやう巳し乃の目め曲まが水みづとていふ
ゆりて正せい統とう 山やま宮みやよりて為なるゆり後のちひり

正統 目本 三月上巳乃目曲水とていふゆりて為るゆり後ひり

矢釣山

同 万葉 矢釣山本名をいふるに海に雲をたぐひて
夫乃河水を流すに水乃は流すをいふるに

蘓我稲目家地 不志る也

蘓我稲目乃館と和州八釣河の連ありと

大宮大寺

俗に講堂やいふ事は一宗に礎石はあ
りしよりつゞきありけり乃講堂の礎
をまきばくもやういふ事その礎石は
大尺のり相に思人あす又けりい
藩乃礎わり心相なるに石乃乃乃
乃ものりをわく天香久山あり十

町ぞのり南也又撰集新通要曰大宮
大寺乃此の南側川乃ありありと
は和よりちり乃南あり後人いふ

大宮大寺

大宮大寺と舊名百濟大寺と号して十市
郡よありと天武天皇二年よ市郡よ
う此に封邑七百戸公田三百町利稻世
と施し相へ所是大宮大寺と改号と
ひ後十三とと帝のやういふ
りくわくせ後ひ東宮草壁皇太子
玉長百官人等とひ大宮大寺
よゆで後もく玉體安年とひ乃
も一実業とらんよ三年乃實業の

あせ修へせ乃誓願... せ修ひより遠佛... 後ひ一が三年乃言... 其のまらまを... 里給ふ日本紀曰持統天皇相... とあ... 絶入于僧乃... 乃り文武天皇... 九重乃塔... 百僧の會... 感由... 此心願... 乃... 舊佛ハ化人乃... 登記よわ... あり... 里... 映像と... 其空と觀... 大境と... 天皇相... 也号一修... くのつ

乃... 舊佛ハ化人乃... 登記よわ... あり... 里... 映像と... 其空と觀... 大境と... 天皇相... 也号一修... くのつ

八本村 付曾我橋
為世八本村は像よそむやう乃橋と

和名 卷之六 三

聖德太子班鳩宮よりとらうむらひ河津へ
曾武く乃橋河わたり八本乃里河也
て橋宮りくひ給ひをり抄

八本村乃南一里をうり信之志也
山と山

思ひあかり心もくをたぬ山よ建
神社一座神田皇成めく御まをり
毎歳二月朔霜月初子目信をりけ
山乃女とやりよ事りて神信よ河トき
とりの雲起山と本鳥山ともいりり

山麓よあり

畝傍池

推古天皇廿一年よ初うきく畝傍池也号せ
日本紀

斤鹽浮孔宮

帝王編年曰畝火山乃水あり今此
四糸村乃北畝宮の地也

人皇三代安寧天皇二年郡河斤鹽より
此一畝死宮と名けを給ふとあり日本紀
延

神代天皇陵

神代天皇と大和國高市郡畝傍山の
東北陵あり延喜又畝火山乃水白橋尾

和名 卷之六 三

上陵とて... 古事記... 延喜七の遠凡二千... 又神年一百廿七... 延喜七の遠凡二千二百六十三

神八并耳余乃陵

神八并耳余乃陵... 乃如よわり... 延喜七の遠凡二千二百五十年... 人皇三代安寧天皇... 山乃西南蔭并上陵あり

十二月... 延喜七の遠凡二千二百十七... 三山

三山

三山... 延喜七の遠凡二千... 延喜七の遠凡二千... 延喜七の遠凡二千

延喜七の遠凡二千... 延喜七の遠凡二千... 延喜七の遠凡二千

檀原宮

高世拍原村と畝傍山乃巽めして
葛上郡より高市郡の所のひを
とひてあり畝傍山よりひひ山乃檀原
よりべし万葉集よりぬひ山乃檀原
也とのある外よりては郡はあつらふ
史檀原宮と人皇乃と下め神武天皇國
をたててつぐつと大和國よりぬひ山乃
南乃檀原と國乃境區を色々と宮に
と下めて定めありせ給ふ己未年三月ある幸
國年正月即位ゆして元とをり妃の
臨齋立十鈴媛命と皇太后とあり給ふ日本
は時天照太神乃靈八咫鏡ありびと草薙

釧と大殿よわがめをりて座代はれきうせめを
給ひく皇居神宮ゆりよるをきくは
はれり天兒屋根命乃孫天種子命又
天志玉命乃孫天富命祭礼とけのゆと
きり壬寅年神湊若川耳の皇太子は
位せと母給ひぬ又宇摩志麻治命内務部
氏率一道理命米目部とひにわく洲
宮乃御門とゆりり記日本
天祖降跡ゆりて神武天皇元年と元
一百七十九万二千四百七十余歳よるまじり
又ろとより延寶七年と元九二千三百廿
九年秋
万葉次畝火乃山の檀原乃ひより高世の略

わが川の清や海を乃因乃可之婆良結うぬ
いの宮よ富をりぬく

秋けも露もあま玉をまらぬ傍山乃兼家持

國源寺けねんじ

國源寺の人皇六十四代國繼院乃御宇

天延二年三月十一日横雲乃元心也志

傍山乃東水乃道法師より市郡

此道なるを乃恭長法師より海をりて

師家ありて國家榮福乃一葉法藤より

是より我と是人皇中一乃國もや常より

寢よしそ後ねまことそ消がどくくせ徳ひ

しより恭長法師每三月十一日け取りて

乃守護藤原國光け瑞相とけくく入國

乃文ありびよ堂法達く觀音菩薩を

よへとくまのり

武託久米寺乃寺のこよありやん

人皇四代懿德天皇と大和國高市郡高橋

山乃南織部縣上陵あり延喜御宇世四

年九月御出あり終ひ

よろうしな終ひ

百六十六年次

延寶七年迄九二子

日本

久米の神武天皇二年道臣命切あつり
より築坂乃色と宅地よ給つる又米目
心此くつことよある色バとて畝傍山より西
の川造よ地波造りりより米目色乃
記日本

久米川

水上たのとり山より物くいぬい乃
方よあのみくあり日本紀曰一事至
神雄畧天皇氏米目水造とく
後ふとまぐ古事紀曰長谷乃山に
区送り後ふとまぐあのみまび久米
川と長谷乃山は同所ありのま

とも長谷とまぐらよなるごとく
此將より表え於とそ久米川よひと表
有穂

畝傍山より七八町南あり
釋迦山東塔院久米寺ハ久米仙人建立
也此より本寺の薬師如来ハ米目皇子の
御成ありハ皇子ハ聖徳太子乃此寺よ
子あり内王林柰久米仙人とまね
あふふ女乃腰乃ちりたとまぐ通と
しあひ人同よゆとりて色同友
よまをせけらりて色同友
色たり後修練して色同友
遊よ死より記大伴仙人安曇乃仙人

あつしつありて 亥よとみけりやるなり 新書
▲塔ハ昔無畏三藏養老年中 来朝あり
て 来目寺よ二年位給ひ一ぐ多寶大塔
高き八丈あり 延喜十一年 是を南
天乃鐵塔乃事 介のうけしありそ乃
柱乃下よ佛舍利三粒大目經七軸と
注のまづ一が 佛法傳 通記 其後延暦十四年弘
法大師爰乃 齋ありて 久米乃道場東塔
乃下りての乃七軸乃經注をくまこり
或曰 旧名 来目寺と弘法大師久米寺と
改字とくまこり也とあり

益田池

久米寺乃りより北かみとみみ漆よ

益田池乃わやとそてあまのふのふれ
り西よはくはく池ぞり村也ふ
わり村老ひはくはく乃池の極の
はあく傳まは池尻乃若ありとなり
おふよ是より南中里むありめて
碑銘とよ入けり石今よのこれと池
尻村より爰まぐむじうと池よ傳り
らんた廣た乃池とのまづ一をせひ
やうまこり性靈集新云ひの廣
たの池まづ一のい今わはのよ
のこまると池乃たよ 海寺新門寺
新蓋寺あり右よ 琴弾原白鳥後
あり南よ大野墓と皇太后先大校

氏乃墓平群郡ありあり少の畝傍山を
良よ来眼寺あり押よ氏内大臣其靈廟
あり橋隈川ありれより也まろく其よ
尤先大枝氏乃墓ハ延喜式よ平群郡
也ありまのまごも平群郡よ池
より西わよあてまると南と少の池お
かけのれ一性靈集よ南よ大墓あ

益田池よ弘法大師碑額と立後ひ
其詞性靈集よは後ひよりなりけし乃
田名と村井と少りけ地と漢直乃舊宅
なり澄飛天皇日照よ田乃少くは平群
けの世後ひより弘仁十三の十一月前大

和守藤原朝臣繩主紀伊守米等けし西よ
志記比より事汝わ記由へより池汝やま
記卷岡河原より一あやま物許あり
より繩主米等真因律師Pあつては
所をより大伴糸織園道弘列太守藤
鷹河池乃換授職よ補よりまより或人
日照と少の池益乃切ありより
益田池と号よりまけりあり
七年迄凡八百六十一年

草根
師兼子首
内裏后所
思の益田池乃水のまよまの池あり
其あふ池乃あり澄月之影也益田乃光る
原より海身より世に西の池あり

益田池碑銘

碑銘ハ古くありて臺也と云く一石あり
傍に彫刻せし東西三丈二三尺南
北二丈北三尺高さ二丈六尺りや
あり多じそ頼よ五尺六寸乃穴方
ありて二川ありゆり北東三四尺
之乃穴乃中向よ五尺六寸乃穴方
てと乃こそりそ乃多げりあるは海
るありうりありて本錢ありあるはひ
一の乃碑銘と云く入るる碑しんり
大和列益田池碑銘并序

東大寺所門大僧都傳燈大法師遍照金剛文并書

若夫感星銀漢下灑之切深湖水天地上
潤之德普故能中嶽因之而鬱茂蟲印頼
之而長生至若八氣播殖五如陶冶北方
之有行偏居其最坎之為德遠矣哉皇矣哉
粵有地是漢諸之舊宅号則村井之故右去
國地仁十三年仲冬之月前和列監察藤納
弘紀太守未等慮元陽之可支歎膏腴之
言紀太守未等慮元陽之可支歎膏腴之
未開占斯勝處奏請之綸詔即應爰別令
藤紀二公及四律師等初切未幾皇帝述
駕汾襄藤公從之辭職紀守亦遷越前
今上膺堯揖讓翊齊寶圖照玉燭乎二儀
撫赤子於八寫簡伴高事國道代檢國

中
卷二六
二

事並拔藤廣任判又西公捨投池事於焉
青鳥引塊數予之馬目聚赤馬驅人百討
之夫夜集既而車馬轟々而電往男女殿
之而雷歸土雰々而雪積堤倏忽而雲騰
究如靈神之挺埴環疑洪鑑之化產成也
不日畢也不年造之人也辨之天也爾乃
池之為狀也尤龍寺右鳥陵大墓南聳畝
傍北峙禾眼精舍鎮其良茂遮荒壠押其
卬雲蕩松嶺之上水激檜隈之下春繡映
池觀者忘歸秋錦閣林遊人不倦駕鸞鳧
鴨戲水奏歌玄鶴黃鶴遊汀爭舞龜鼈延
頸射鯉掉尾洞懶祭魚林鳥反哺泊如積

水含天疊山倒景深也似海廣也超雅笑
昆明之非儔西耨達之猶少虎嘯鼓濤則
驚汰沃漢龍吟決堤則容與不飽襄陸之
周象不得溢其塘焦山之女魃不能涸其
庶六郡蒙潤萬滄湯々一人有慶兆民賴
之舞之蹈之詠予箱以擊膝手之足之唱
不歲而忘力歎蒼海之數變索銘詞乎余
業貪道不文當仁固辭不能謀虛吐章迺
為銘曰
希夷象帝一末萌盤古不出國常無生
元氣倏動葦芽乍驚八風扇鼓五才縱橫
日月運轉山河錯峙千岳森羅萬物難起
藤層既隱稷稅爰始天地人地灑落切似

前亮後馬 機事不測 綸繳雷震 伴相施討 爰有一坎 車馬霧聚 深而且廣 百溪之宗 畎澮汎溢 如流如京

惠厚恤人 有司劊切 原守在公 其石益田 男女雲連 鏡徹紺色 萬派之職 苗畚播殖 足共足食 屯倉 屯倉ハ天子ノ米廩也

省略廣運 潤物如雨 紀藤薙草 良才奇術 掘之人力 歸來似子 澆滌淅淅 蓁蓁我執 井田我事 堯帝何力

慈悲且仁 榮人似春 果績圓豐 民具穰風 成也自天 早切不年 瞻望同極 龍斯匿 穰々我播

兼仁天皇廿七年 兼月邑也 屯倉

日本紀 延

寶七年迄一千五百四十二年

茂内宿禰墓

性靈集鈔曰益田池乃埤也

今在比叺

茂内宿禰ハ人皇十七代仁徳天皇七十八
年ノ年去リ日本より比叺りて三百五
歳也今比叺宿禰也人皇八代孝元
天皇乃孫男茂雄心會乃子也り代乃
帝也比叺りりりりり

鳥屋村

池尻村埤也鳥屋村

雄略天皇十年九月身被於至青

乃織二羽とむす統雲かしては織田水間
君の大齋死し水間乃君鴻十羽と春を
人と成せりて飛とこのちて天皇ゆ
後ひくこの乃君代狸村磐余村二羽りて
嗣後ひくまり日本はわたりや傳りて延
寶七の乙丑凡一千百廿三年秋

輕 糸目村の良

天と名輕乃道より玉田吹散火と名傳
あさよりよひ紀後よ入立真志山二西のん
同 天と名輕の社乃奇觀世までわんざりはま

輕境原宮

帝王編年曰輕大路乃西方ま今見
於大道乃西天神乃宮わりのその也

二 俗よ所の記をうやみは一はゆきとん
人皇八代孝元天皇四年三月都代輕乃地よ
うはし給ひく境原宮と名号とらまこり
日本 延寶七年乙丑凡一千八百九十年秋

輕曲渡宮

輕乃町より西南五町むらりを控て田
地よ内よりおさと俗よふ西あり西り
の所養也ひり

人皇四代懿德天皇御宇二年正月都代
輕乃地より流し後ひく曲渡宮と名号とら
るる日本又輕境園宮ともいふ古事延寶
七年乙丑凡一千八百八十八年秋

輕德明宮

法輪寺又ハ輕寺凡廿四代推古女帝乃此寺ニ
遣唐使賀正大臣云理もたありあり
則天皇辰の象乃素師如來より海より
けり云靈瑞異驗と云の云々
宮女氏よりありて終る云々
の像と云人なりあり廿六代舒明天皇の
御宇よりありて遣唐使より一の六則天
皇后乃命よりありて遣唐使大臣よりあり
是面皮と云此纏は燈臺と云て云々
云々
世の人燈臺鬼と云ひ凡廿六代皇極天
皇乃此寺の乃大臣乃鬼と云々

云光の遣唐使より一付燈臺鬼は由りて
也色父と云ひ云々
ふと由りて云々
詩句と云まじりあり父と云々
於てハあり云々
也もさひ云々
有り又日本紀曰朱鳥云々
百戸廿年と云の記りて後あり云々

燈明寺は乃依りて
町より十町南より大道乃

檜隈川

舟杭田内國也山巽龍舟也
宣化天皇乃皇居檜隈入野宮大
和國也皇乃よりく大和皇よあらん
まゆらあり鶴取山乃ゆ檜隈村あり
村の西よ檜隈川ゆよりく行水と

龜巖七首

弱あてきりし海じうらわも檜隈川の水は豊

万葉

山びのま檜隈川乃弱あてきりし水は豊

檜隈入野宮

ゆら記文よ檜隈川乃色とらん物
せしと南世取れども今乃檜隈村は

皇居の跡ありんり

人皇廿九代宣化天皇元年正月都筑檜隈

廬入野より行きて宮乃名ゆらむ後

あり日本延喜七年迄凡一千百四十四年

檜隈乃入野の宮れゆらむ川に記して光後

欽明天皇陵

は郡よおのく陵ゆらり物ら記文

よらん物事ども今らんわつらん

む後の人あらくあはるべし

浅きるも乃

人皇廿代欽明天皇大和國高市郡檜隈

坂合陵あり延喜御宇廿二年四月為御子

日後八ヶ九月は陵よりらん

延寶七年壬辰九月十九日

推古天皇陵上大柱

推古天皇廿八年十月所築也。ももく檜隈
陵上よ膏きまもり別めぐりのよむ。大柱
山深き一氏人よおほく。大柱は山乃人
よまゆせらまじり。備漢坂上直きまそ
がれくおほいたり。まきまそ。時乃人
大拍乃直とそいへる。類聚是と河文欽明
天皇乃陵もやゆりもんまらむ。

天武天皇陵

或記曰清見原村とて寺よりすま
むらりの西よ陵わりとまらむ。

人皇四十代天武天皇八和國高市郡檜隈

大内陵 延喜七年九月よ高市郡檜隈

一の持統天皇元年十月よ皇太子公卿百

官人等御ありつまゆせらむ。びよ猪田乃つ

さく。因造百姓乃男女海く。増田とく大内

陵とまらめら。まらむ。二多十一

月よこの陵よのう。まらむ。日本 延寶七

年乙丑九月十四日

持統天皇陵

人皇四十一代持統天皇八和國高市郡檜

隈大内陵也。あり。延喜大寶二。よ高市郡

檜隈。同三年十二月。飛鳥園あり。まらむ。

ゆのがら。まらむ。帝王乃火葬。乃まらむ。

ゆ。あり。天武天皇乃陵。よ高市郡。あり。

後日 延寶七(八)年 延寶七(八)年 延寶七(八)年 延寶七(八)年

文武天皇陵

人皇四十二代文武天皇の慶雲四年六月、高麗

より移し、十一月、高麗國よりしてありと

あり、廿二日、檜隈安古山陵よりうつり、

於本祀、延寶七年、延寶九百七十六年、

吉備姫王墓

吉備姫王と大和國高市郡檜隈陵、延喜

吉備姫王と皇極天皇の母公野原王乃内女

堅塩媛陵

皇大夫人堅塩媛と推古天皇廿二年二月、

檜隈大陵より改葬せしむる事あり、類聚、堅塩媛ハ

欽明天皇乃妃、乃て獲我大臣稻目宿禰乃

女也、用明天皇又推古天皇乃母、延寶七

年、延寶七(八)年、

檜隈野吳原

か、依乃町と、高取乃城との中、路より、

言りや

人皇十六代應神天皇廿七年二月、吳の

二女、汝もとも、汝を給ひ、もんや、物使、

り、ハ、別高麗國より、うつり、ハ、吳乃

歌と、志の二人、導と、別、高麗乃國王、

波久礼志の二人、導と、別、高麗乃國王、

ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、

天武天皇朱鳥元年檜隈寺輕寺大津宮
各封百戸世年とらなり又巨勢寺封二百戸
と御寄附あり日本は寺等乃監觸ゆとら
とらぬべし

檜隈寺

又ひつひ乃國肇として給ふぬ色もひて
徒歩宮中よ入しききりけぬは封戸
後延暦十四年六月遷化すなり
兼息と延鎮ハ同人異名なり教書真興法書
師は寺よ後おろしが後の人けとたうとを
子乃先徳とぞひききる傳と教書あり

竹取乃舊とみあわりとらり季春乃月と園よ
のかりてあがめけりよ九人乃油女よわひ

竹取

由世鷹取也とを中朝林採葉曰竹取
乃翁乃旧跡ハ由世大和國よ竹取乃城
也とてとらりしとあはし是也
也とて竹取物語乃翁ハ後河内國大和
の里り傳し人あまきハ別人よとらる

万葉 死にそのひんをわらわはるわらわはる愛子等よ
 又とらぬあつらひなる歌九首ありあはれしは
 万葉集よらんゆふる今ころそふありあはれ
 のあり

壺坂寺 寺領四十五石六斗

お佐乃町より南東一里むらり

壺坂寺と又南法華寺と 拾芥山本寺
 千子観音菩薩の道基上人乃達宮あり
 拾芥 用基の元興寺海辨僧正とゆへり
 とも帝王編年曰文武天皇大宝三年
 佐伯姫足子乃尾善心とゆへり高市郡
 南法華寺を建立す人ありけり寺元末靈

駿乃蘭着るまはとそ仁明天皇養和十四年
 十二月の定観ありびよ宮長乃捨校するべし
 や乃宣下あると 續日本 後紀 此のえ関鎮主龍藏
 現ハ赤野川赤根の剛乃龍神とゆへり

壺坂より八町むらり東よる香山と云
 西よ五百羅漢ありびよ西界乃曼陀
 羅と云ふ石あり

蘓我河原

八本よりすぬ町西をり蘓我村乃西
 乃より蘓我川ゆよあつらひり水止
 と越智とゆふあつらひり諸方乃川原合
 せいつらけり蘓我乃家地あり

大藏神社二座

河内神社

瀧本神社

天津石門別神社

波多懸井神社

氣吹雷尊雷吉野

波多守社

於菟所志神社

鳥坂神社二座

許世都比古會神社

久米河縣神社

大園河龜神社三座

和列舊跡幽考第十六卷終

